

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2018-008
2.研究課題名	実験室場面・日常場面における感情の測定——唾液中コルチゾールを含む多面的測定——
3.研究期間	平成 31 年 2 月（倫理審査委員会承認後）～ 平成 32 年 3 月 31 日
4.研究の概要	<p><b>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての的確に記すこと。）</b></p> <p>感情の測定においては、主観指標や行動指標だけでなく、生理指標による客観的な評価も必要である。心理学分野では、生理指標としては、脳波や心電図などの電気的信号を測定する方法が主流であり、ホルモン等の生化学指標の測定については、その多くが血液を検体とする侵襲的方法だったために、用いられることはなかった。しかし、唾液検体から非侵襲的に、負担なくコルチゾールを測定する技術が確立し、心理学分野でも用いられるようになってきた。しかも、ノイズが乗りやすい電気信号とは異なり。生活場面での測定が容易であるというメリットもある。</p> <p>コルチゾールは明瞭なサーカディアンリズムを持つと同時に、精神状態を反映して変化することが知られているが、その詳細は研究途上であり、感情とコルチゾール、あるいは他の指標との関連性を明らかにすることは、感情心理学・生理心理学における重大なテーマである。</p> <p><b>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</b></p> <p>東北大学文学研究科の大学生・大学院生男女を予定している。人数は研究全体で 60 名程度を見込んでいる。ポスター等によって広く募集を行い、自発的希望者を対象として実験を行う。</p> <p>インフォームドコンセントに関する配慮を十分行い、十分な説明を行った上で、所定の実験参加同意書に署名を得て、納得して実験に参加してもらおう。実験室実験・日常場面における実験ともに、刺激の前・最中・後（pre/mid/ post）に唾液検体の採取や質問紙への回答を求める。唾液は、Sarstedt 社製 salivette 等を用いて、脱脂綿を口に含んでもらうことによって、2ml 程度採取する。遠心分離後冷凍保存し、解凍して高速液体クロマトグラフ（HPLC）によって分析を行う。電気生理指標は、定評ある市販のポリグラフ等（PowerLab）を用いて測定する。</p> <p>刺激は、以下を候補とする。</p> <p>&lt;実験室実験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・静止画；顔（表情）・風景等</li><li>・動画：市販の映画等</li><li>・カラーワードストループテスト（別添 2 参照）</li><li>・ゲーム：市販のテレビゲーム等</li></ul> <p>&lt;日常場面&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・発表</li><li>・楽器等の演奏</li><li>・自己紹介</li></ul> <p>実験謝礼は参加者が実験への興味を持って自発的に参加してくれるこ</p>

とを前提に、500円相当の図書券や茶菓の提供などで謝意を表す。

問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）

東北大学大学院文学研究科心理学講座  
psycho@ml.tohoku.ac.jp